

性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会
(第25期・第3回) 議事要旨

1 日時：令和3年6月4日(金) 10:00～12:00

2 場所：オンライン

3 出席者：渡辺 美代子、名越 澄子、河野 銀子、高瀬 堅吉、野尻美保子、
伊藤 公雄、上田 修功、安田 仁奈、能瀬さやか (以上、名簿順)
(事務局) 大山 研次、森田 健嗣

4 議事要旨

(1) 前回議論の確認

第2回分科会の議事について確認した。

(2) 生涯にわたる男女の健康支援における「性差医療」の重要性に関する話題提供
名越副委員長より、資料1に基づき話題提供があった。

(3) スポーツ界における性別問題・女性役員の割合に関する話題提供
能瀬委員より、資料2に基づき話題提供があった。

(4) 意見交換

名越副委員長、能瀬委員の話題提供に基づき、意見交換を行った。主な質問やコメントは下記の通りである。

● 男女共同参画基本計画について

- ・「生物学的な性」が男女共同参画基本計画のなかで考慮されていることは重要である。
- ・男女共同参画基本計画では「暴力」の問題が常に最重要課題として取り上げられている。
「暴力をしてはいけない」ということを示すだけでは、問題は解決されないので、生物学的性の問題として検討することも必要ではないか。

● 医学的知見について

- ・男性の攻撃性はテストステロンと関係があるのか。育児期間中にテストステロンの血中濃度が下がるのは科学的事実か。これらが事実であるならば、男性がケアに参加することで暴力の減少につながると思う。
→確認してお返事する。

- ・テストステロンと暴力の関係など、性ホルモンと脳機能に関する知見について諸説ある。[ドリーン・キムラの著書](#)などでも紹介されているが、これらの知見は科学的事実と考えるとよいのだろうか。
- 性差医療について
 - ・女性専用外来はあるが、男性専用外来というものはあるのか。
 - 女性専用外来ほどではないが、日本でも男性を対象とした性差医療はテーマとなっている。
 - ・女性外来と婦人科は何が違うのか。
 - 女性外来は女性を対象とした女性医師による総合診療科ともいえる。内科医、産婦人科医、精神科医など複数の女性専門医が診療を担当している。
 - ・同性が医師として治療することのポジティブな治療効果はあるのか。
 - その効果はあると考えられる。
 - ・LGBTQ の方々は何科で受診するのか。
 - 精神科などでは、LGBTQ の方々が抱える問題を扱うことが多い。性同一性障害を専門とする医療機関を受診することもある。
 - ・性ホルモン以外にも疾患の性差に関係する要因はあるのか。
 - 性ホルモン以外の要因はあるが、動物実験では性ホルモンが操作しやすいため、疾患の性差に関係する要因として性ホルモンが注目されやすい。コロナ禍で起こる心の問題の性差などは、性ホルモンだけでなく社会的要因の影響が多分にあると思う。
 - ・女性と男性で病気のタイプが異なることは興味深い。女性専用外来が普及することに加え、もっと簡便に受診できるような支援ツールの開発は検討されているのか。
 - ツールの開発は途上であるが、日本性差医学・医療学会で認定医等の制度を設けて、啓発活動の推進に役立てるよう準備中である。また、性差医療に関する知見を医学教育に入れていくことが重要だと考えている。
 - ・医学生への教育においてジェンダーの教育は行われているのか。
 - 少ないと思う。医学教育モデル・コア・カリキュラムに性差の概念を入れるべきだと思う。
- オリンピック・パラリンピックについて
 - ・オリンピックは男性、女性のどちらかでの参加となってしまうが、パラリンピックは参加枠が非常に多様である。この点について、オリンピックはパラリンピックから学ぶことはできないだろうか。
 - パラリンピックの選手は、障がいの部位や障がいのレベルが様々であり、専門の資格をもった医師等がどのカテゴリーで参加するかクラス分けを行っている。このクラス分けのような制度が、今後の高アンドロゲン血症等のカテゴリー化の参考になるかもしれない。IOC でも性別問題については長年議論しているが、解決されていない。当

該委員会の男女の内訳は不明である。

- ・男女以外に、テストステロン値なども含め、様々な基準を設定して多様な参加枠を設けたほうが良いと思う。

→テストステロン値を基準値とした場合、男女の骨格が違うため、テストステロン値だけで基準を設定することは難しいのではないかという意見もある。様々な基準を検討することが良いと思う。

→もともとオリンピックをはじめとするスポーツは男性中心から始まり、そこに女性も参画するという歴史があるためテストステロンで性別を測ろうとしている。現在は過渡期にあるという状況を踏まえて、多様な人々のスポーツに変えていくことも必要である。

- ・女性選手の健康問題について制限する動きはあるのか。

→BMI が一定値を超えないと出場できないという基準を設けている国際競技連盟もある。啓発もされているが、医療者と指導者の思いの違いがあり、解決が難しい場合もある。

→科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会で議論され、提言も発出している。スポーツ庁が次期基本計画に入れる予定であると思われる。ただし、オリンピックにおける参加枠の多様性については提言に入っていないので、こちらの分科会から意見を表出するのが良いと思う。

● トランス女性の社会参画について

- ・当小分科会でも扱った方がよいと思う。

以上の意見交換を踏まえ、分科会として下記について共有した。

- ・「性のスペクトラム」という考え方は前回の会議でも意見として出されており、非常に重要だと思う。今後、委員以外の専門家の意見を聴取し、外部参考人として話題提供もご提案いただきたい。

(5) 次回内容の確認

河野委員、高瀬委員による話題提供

以 上